

ARG 定義ガイド

このガイドは、本コンテストにおける「ARG(代替現実ゲーム)」の定義・判断基準を示すものです。応募前に必ずご確認ください。審査員もこのガイドをもとに作品を評価します。

1. ARGとは何か

ARG(Alternate Reality Game=代替現実ゲーム)とは、現実世界のさまざまな媒体・場所・コミュニケーション手段を舞台として展開する、参加型の物語体験です。

最大の特徴は「This Is Not A Game(これはゲームではない)」という哲学にあります。ARGは自らがゲームであることを否定し、あくまで「現実に行き来していること」として参加者に提示されます。

ARGを構成する3つの要素

【現実との地続き感】 フィクションであることを明示せず、実在するWebサイト・SNSアカウント・電話番号・郵便物などを通じて体験が展開される。

【参加者の能動的関与】 物語を「観る」のではなく、参加者自身が謎を解き・情報を収集し・NPCと対話することで物語が進む。

【複数媒体の横断】 単一の媒体に留まらず、SNS・Web・メール・電話・物理媒体など複数のチャンネルを横断して体験が設計されている。

2. 本コンテストにおける必須条件(Must)

以下の条件をすべて満たすことを必須とします。

第1章で挙げた3つの要素を、本コンテストの審査で確認できる形に具体化したものが、以下の5つの条件です。

✓ 1. プレイヤー自身が主人公であること

物語の「外側」にいる観客ではなく、プレイヤー本人が物語の当事者として関与する設計であること。

✓ 2. NPCとのコミュニケーション場面を必ず設けること

プレイヤーが物語内の登場人物(NPC)と直接コミュニケーションを取る場面(メッセージのやり取り、電話、フォームへの入力等)を最低1箇所設けること。

✓ 3. 複数の媒体を横断すること

体験が単一のWebサイトや単一のSNSアカウントのみで完結せず、2種類以上の異なる媒体・チャンネルを使用すること。物理的な商品(必須条件5)も媒体の1つとして数えます(例:商品同梱物+Webサイト=2媒体)。

✓ 4. ストーリーとギミックが連動していること

謎や仕掛けが物語の文脈と矛盾なく繋がっており、「なぜその謎がそこにあるのか」が世界観の中で説明できること。

3. 推奨条件(Want)

必須ではありませんが、審査において高評価につながりやすい要素です。

- エンディングが複数ルートに分岐する、またはプレイヤーの選択が結末に影響すること。
- 緊張感を与えるリアルタイム性(時間制限のある謎等)を持つこと。
- 視覚・聴覚・触覚など複数の感覚を活用したギミックがあること。
- 物理的な商品と連動していること

※Webサービスやデジタルデータ単体など、現実で手に取れる形を持たないものは、ここでいう物理的な商品には含まれません。

4. ARGと類似エンタメとの違い(判定基準)

ARGは「これはゲームではない(This Is Not A Game)」という原則のもと、フィクションであることを伏せ、現実に行き起きていることとして参加者に提示します。「謎を解く」「選択する」といった能動的な関与はどのジャンルにも共通しますが、ゲームだと明示せず現実と地続きに見せることこそが、ARGを他と分ける核心です。

この観点で代表的なジャンルを比較すると、次のようになります。

ジャンル	「これはゲーム」と明示するか	プレイヤーの立場	体験の舞台	判定
ARG	明示しない(現実として提示する)	物語の当事者＝主人公	現実の複数媒体を横断(SNS・Web・電話・郵便物など)	✓ 対象
謎解きイベント	明示する	来場者・解答者	会場や専用サイト内で完結	✕ 対象外
脱出ゲーム	明示する	プレイヤー	専用の部屋・空間内で完結	✕ 対象外
インタラクティブ小説 / TRPG	明示する(フィクションとして提示)	読者・演者	作品(書籍・卓上)の中で完結	✕ 対象外

※「✕ 対象外」は、これらのジャンル自体を否定するものではなく、あくまで「本コンテストが定義するARGに該当するか」の判定です。これらの要素を取り入れていても、第2章の必須条件をすべて満たしていればARGとして成立します。逆に言えば、対象外ジャンルが必須条件のどれを欠いているか(多くは「現実との地続き感」「複数媒体の横断」「物理商品との連動」)を確認すると、第2章のチェックにそのまま使えます。

5. 生成AIの利用について

本コンテストにおける生成AIの取り扱いは以下の通りです。

画像などのビジュアルアセットはAIの活用には制限を設けませんが、企画書の文章(コンセプト・世界観・物語・システム設計)は応募者自身による執筆を求めます。

✓ 許容される利用

- ARGのギミックとして、AIチャットボットやAI生成音声NPCとして活用すること(例:AIキャラとのチャットで謎を解く仕組み)
- 世界観・コンセプトの参考・補助としてAIを使用すること
- ビジュアルアセットの補助としてAI画像生成を使用すること(作品内でAI生成であることを開示する必要はありません)

✕ 禁止される利用

- 企画書の主要な記述(コンセプト・世界観・ストーリー・システム設計等)を生成AIの出力のまま転記すること。
- ストーリーやキャラクター設定をAIに一任し、人間による編集・再構成を行わないこと。

判断の目安:「企画の核となるアイデア・物語・体験設計は応募者自身のものか」が問われます。AIは道具として使ってよいですが、作品の主著者は人間であることが求められます。

6. 審査における本ガイドの位置づけ

本ガイドで定めた必須条件(第2章)を明確に欠いている場合は、一次審査で落選となります。ただし、条件を満たしているかどうか判断が分かれる作品については、作品全体の完成度・独創性・体験性を勘案して総合的に審査します。

「これはARGなのか？」と判断が難しい場合は、お問い合わせ窓口までご相談ください。

お問い合わせ：info@kyokoukawai-official.com (平日 10:00～18:00)